

平成7年度 Best Author 賞の表彰

本学会では平成3年度から「Best Author 賞」を設け、学会誌「情報処理」に掲載された記事の中から、特に多数の会員の研修ならびに学術・技術の啓蒙、普及に貢献した記事を選び、その著者を表彰することにいたしております。

本賞の選考は、表彰規程および Best Author 賞候補者選定手続きに基づき、学会誌編集委員会(委員長 川田圭一)が選定委員会となり、学会誌「情報処理」第36巻第1号～第12号に掲載された対象記事146編につき慎重に審議を行った結果、下記の6編が受賞候補記事として選定され、第 回理事会(平成8年3月)の承認をえて決定されました。なお、本学会表彰規程により、5月20日に開催された第38回通常総会において、著者に表彰状および賞金が授与されました。

解説「量子コンピュータ」(Vol.36, No.4)

西野 哲朗君(正会員)

昭和34年生。昭和57年早稲田大学理工学部数学科卒業。昭和59年同大学院理工学研究科博士前期課程修了。同年日本アイ・ビー・エム(株)入社。昭和62年東京電機大学助手。平成4年北陸先端科学技術大学院大学助教授。平成6年電気通信大学電子情報学科助教授。理学博士。回路計算量理論、量子計算量理論などの研究に従事。電子情報通信学会、日本ソフトウェア科学会、人工知能学会、日本数学会、LA 各会員。

事例「進捗管理のための新視点—真実の進捗をつかむために—」(Vol.36, No.6)

安部 晃生君

1977年九州大学法学部卒業。同年中央信託銀行(株)入社。1988年よりシステム部所属。情報系および証券運用関係のシステムに係るプロジェクトマネージャを経て、現在、同部主任調査役として、社内のEUC推進を担当。

特別論説「情報処理最前線」(Vol.36, No.7)

ギガビットネットワークの壁

後藤 滋樹君(正会員)

1948年生。1971年東京大学理学部数学科卒業。1973年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。NTTソフトウェア研究所研究部長を経て1996年より早稲田大学理工学部教授(情報学科)。工学博士。電子情報通信学会、人工知能学会、ソフトウェア科学会、応用数理学会、ACM、IEEE、インターネット・ソサエティの各会員。

村上健一郎君(正会員)

1955年生。1979年九州大学工学部情報工学科卒業。1981年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社入社。現在NTTソフトウェア研究所主幹研究員。インターネットパラダイム、記号処理計算機などの研究に従事。電子情報通信学会、ソフトウェア科学会、ACM、インターネット・ソサエティ各会員。

特別論説「情報処理最前線」(Vol.36, No.10)

インターネットの進化発展の意味

会津 泉君(正会員)

1952年生。パソコン通信やインターネットなど、グローバル・ネットワークに関する調査・研究活動が続けている。現在、国際大学GLOCOM企画部長、(財)ハイパーネットワーク社会研究所研究企画部長。著書「進化するネットワーク」(NTT出版)。近著「入門インターネット・ビジネス」(日本経済新聞社、共編著)。

特集「情報化社会への視覚障害者の参加を考える」(Vol.36, No.12)

解説「視覚障害者支援ソフトウェアの製作」

斎藤 正夫君(正会員)

1948年生。1960年失明。1969年石川県立盲学校療科専攻科卒業。同年前田整形外科医院勤務。1992-1996年筑波技術短期大学客員研究員。1995年同大学非常勤講師。1983年来、「視覚障害者が独力で操作できるパソコン利用環境」を目指し、自分自身の使用状態を踏まえて画面表示音声化プログラム開発に従事。1995年(有)アクセス・テクノロジー設立、代表取締役。

解説「World-Wide Web (WWW)」 (Vol.36, No.12)**益岡 竜介君**(正会員)

昭和37年生。昭和60年東京大学理学部数学科卒業。昭和62年同大学院修士課程修了。理学修士。昭和63年(株)富士通研究所入社。平成3年カーネギーメロン大学客員研究員。平成5年より富士通研究所に戻り、現在マルチメディアシステム研究所ネットメディア研究センター研究員。ニューラル・ネットワークなどの研究に携わる。

木庭袋圭祐君

1970年生。平成5年東北大学工学部精密工学科卒業。同年富士通(株)入社。現在に至る。主に文書形式、World Wide Web、インターネットのセキュリティ技術、電子商取引、CORBAに代表されるオブジェクト技術など、様々な分野の技術動向の調査や標準化活動に従事する。